

共同研究室

昭和五三年度第六回研究会(十月十三日)

▼テーマ 北東イングランド石炭鉱業史研究の諸問題——石

炭鉱業における産業革命と独占類型

報告者 若林洋夫氏

報告要旨

本報告は本誌に五回にわたって掲載された拙稿「産業資本主義段階における近代的独占の存在形態——北東イングランド石炭独占の歴史的性格——」(第十四巻第五・六合併号、第二十五巻第一・三合併号、第二十六巻第二号、第二十七巻第一号、同第二号)のなかから、①石炭鉱業における産業革命と賃労働および②産業革命・産業資本確立期に固有の特微的な石炭鉱業における独占類型の歴史的特質という主要問題をとりあげたものである。仔細は拙稿に譲ることにして、本報告の構成(中項目まで)は次の通りである。

I 問題の所在

II 北東イングランド石炭鉱業史研究の歴史的諸前提——

産業革命期以降の石炭鉱業史研究のための予備的考

察——

1. 大陸の「鉱業権主義」と異なる、地中の鉱石の所有

II 帰属に関する「土地所有者主義」

2. 産業資本II資本主義形成に関する「二つの道」(い

わゆる「中産的生産者層」の両極分解を通じた下からの道と

前期的資本の産業資本への転成という上からの道)に関わる

論点

III 北東イングランド石炭鉱業における産業革命

1. 労働手段変革の技術的指標——諸画期の確定を中心

として——

2. 労働力編成・労務管理と資本・賃労働関係

3. 近代的鉱区賃借権の確立

IV 北東イングランド石炭独占(一七七一年～一八四四年ま

たは一八四五年)の歴史的性格——石炭鉱業における独占

類型の歴史的特質——

1. 石炭独占の構造と展開過程(画期)

2. 北東イングランド石炭鉱業における独占類型の歴史

的特質

質疑要旨 本報告をめぐっていくつかの質疑応答が行なわれ

たが、主な論点は要旨次の通りである。(以下、報告者の整理による)

(1) 産業革命全体にとって石炭鉱業の発展がもつ意義は産業用原燃料の生産・供給という点、すなわち生産財生産Ⅱ第一部門としての確立という点にあるにもかゝらず、家庭用燃料炭という消費財生産Ⅱ第二部門に属する石炭を基軸炭種とする北東イングランド石炭鉱業を研究する意義はどこにあるのか？

(2) 近代的独占といえど誰でも十九世紀末以降生産の集積を基礎として成立する独占を想定するのであるが、産業資本主義段階における近代的独占などというものを研究する意義はどこにあるのか？

(3) 一八四四年ないし一八四五年に域内公共鉄道網の建設によって崩壊する北東イングランド石炭独占というのは、いわば産業革命の完了とともに崩壊する「過渡的独占」というべきもので、産業資本主義段階に固有の近代的独占とはいえないのではないか、つまり資本の本格的蓄積期である一八四〇年代後半以降「大不況期」の始まる一八七三年までの時期に存在しえなかつたしかも「過剰生産能力」の累積によって崩

壊した独占をどうして近代的独占であるといえるのか？

これらの論点に対する報告者の見解は要旨次の通りである(右の論点の順序に従う。鈎括弧は報告当日以後の補足)。

(一) この研究報告の当初の直接の動機は北東イングランド石炭独占の歴史的性格の解明にあり、その過程でイギリス石炭鉱業における産業革命の発祥地は当該地方にあり、また炭鉱資本の坑夫Ⅱ労働力の直接的管理Ⅱ支配の枢軸をなす階層的職員組織が最も早く発展しており、かつこの地方は少なくとも十九世紀前半期までのイギリス炭鉱労働運動のなかで指導的役割をはたしたことを確認することができた。だが、北東イングランド炭田は当該時期において、指摘されるように、ランカシャー、スタッフォードシャーやサウス・ウェールズ等の諸炭田などに見られるような産業革命の基軸をなす綿工業、製鉄業や機械工業等との産業連関をその立地Ⅱ市場条件において著しく欠落していたことは事実である。北東イングランド炭田はロンドンを中心とするイングランドの東部沿岸および東南部地方を市場Ⅱ蓄積基盤として十九世紀中葉まで最高級炭種とされた家庭用燃料炭を基軸炭種としつゝ、併せて当該地方の製造業、ガス(照明用)製造業——一八三〇年代の

ロンドン石炭市場でガス用炭は全体の $\frac{1}{3}$ を占めた―や蒸気力鉄道等に燃料炭を供給した。したがって指摘された問題に対しては、石炭独占・石炭独占禁止(「營業の自由」)政策や石炭税制との関連を除けば、イギリス産業革命の一環としての石炭鉱業における産業革命と賃労働の研究であり、(使用価値視点から見た新に代わる石炭の消費財としての意義も当該時期

において軽視すべきでない)、といわざるをえない。(「北東イングランド炭田の供給炭種は一八四〇年代以降クリーヴランド地方―ダーラム州と州境を接するノース・ライディング州北東部のティーズ河流域―における良質で豊富な鉄鉱石―鉄脈の発見によって著しく変化した。すなわち、一方で、一八五〇年代に汽罐用炭市場で北東イングランドとウェールズとが熾烈な競争を展開し、他方で、一八五五年にはイギリス全体の鉄道用コークス一三〇万トンのうち五〇％はダーラム州で製造されていたが、一八五〇年代以降のダーラム・ノーサンバールランド両州およびノース・ライディング州(これら三州は広義の北東イングランド地方を構成する)における新興製鉄業の隆盛によって、一八七七年にはダーラム州だけで一万四〇〇〇基のウィーハイヴ型コークス炉によって四〇〇万トン

のコークス(六五〇万七〇〇万トンのコークス炭を必要とする)が生産され―この年のイギリスの銑鉄生産全体の石炭消費量は一五三四万トン―、また一八六七年以後広義の北東イングランドはイギリス最大の製鉄業地帯となったのである。また、一八八二年にダーラム州クルックでイギリスで最初の副産物回収コークス炉が製作された。)

(二) 報告者は、以前「マルクス『近代的独占』論の意義と限界―「自然的独占」の検討を中心として―」(『土地制度史学』第五十八号、一九七三年一月)という論文を公表したが、そのなかで、「資本論」体系の中で前提されている競争(自由競争)を概念的に規定するためにはその否定としての、対立概念としての独占を前提しなければならず、両者は相互前提関係にあること、しかもこゝでの独占は封建的 \parallel ギルド的独占とは範疇的に異なる競争の否定としての近代的独占、すなわち自然的諸独占であること、を理論的方法的に解明することを企図した。そのうえ、経済史学のなかでは、先進資本主義イギリスおよびアメリカ合衆国、フランスでは「世界史の上で『初期独占』と最新型の『独占』のあいだに明白な断絶の一時期が見い出される」(大塚久雄、初期独占論、『大塚久雄

著作集」第三卷、一九六九年、四五五ページ）として、産業革命期・産業資本主義段階の近代的独占の存在形態など一顧だにされてこなかったのであるが、本研究報告は報告者のマルクス「近代的独占」理解を手がかりに、その事例的実証分析を意図したものである。（本研究報告を通じて報告者にとって理論的に確認できることは、資本主義の自由競争段階Ⅱ産業資本主義段階とは競争が独占と対抗しつゝそれと併存しながら体制的に支配的傾向として確立した資本主義の発展段階である、ということである。）

(三) 一八四四年ないし一八四五年に北東イングランド石炭独占が崩壊し、その後再建できなかった問題に関して最も重視されるべきことは、イギリスでは数多くの有力炭田（その中で北東イングランド（グレート・ノーザン）炭田は一九三八年まで全国七大炭田の中で最高の生産量を記録した）が全国的に分布するという地理的・地質的特徴と、一般的に無数の炭鉱企業の存立をもたらす「土地所有者主義」という制度的条件である。かゝる事實は十九世紀中葉以降、炭田間の熾烈な競争いわゆる「過当競争」が展開された基本的原因を構成した。これはドイツなどに見られないものである。こうした

見通しのもとで、前記の北東イングランド石炭独占の崩壊についていえば、既存炭鉱とくに大炭鉱が、「土地所有者主義」という鉱区独占をたえず内部から突き崩す可能性を孕む制度的条件と、当時としては高度な水準にあったにもかゝらず十九世紀末～二十世紀初頭と比較してなお絶対的には低い水準にとゞまらざるをえなかった資本集中と生産の集積の現実的条件のもとで、域内鉄道網の建設によって新たな参入条件を与えられたダーラム州の南部および西部を中心とした広大な石炭鉱区を獲得し賃借できなかったこと（賃借鉱区の未開発が巨額の固定地代負担を伴う「土地所有者主義」はそれを必要としない「鉱業権主義」と対比して鉱区の先行取得を著しく困難にする）が「過剰生産能力」の累積を防止できず、石炭独占を崩壊させた直接の基本的原因となったのである。このことは、「土地所有者主義」という制度的条件を除いても、鉱区独占や地理的位置の便益独占等の「自然的独占」を独占存立の規定的契機の一つとする独占類型としての近代的独占が辿る歴史的命运ではなからうか。すなわち、鉱物資源を採掘する採取産業で独占が成立している場合、とくに新たな広大な競争鉱区が発見された時にはたえず独占は再編成を迫られるか、または

崩壊を余儀なくされるのであり、北東イングランド石炭独占の崩壊は以上の一般的要因と特殊イギリス的要因との重合が一八四四年ないし一八四五年に現出したとみるべきで、産業革命の完了とともに崩壊したという「事実」はこの石炭独占の崩壊の歴史的意義を把握する基本線ではない、と思われる。

昭和五三年度第七回研究会（十月二十日）

▼テーマ 資本蓄積と流通必要金量

報告者 竹味能成氏

▼テーマ 特別剰余価値・超過利潤・独占利潤

報告者 佐々木秀太氏